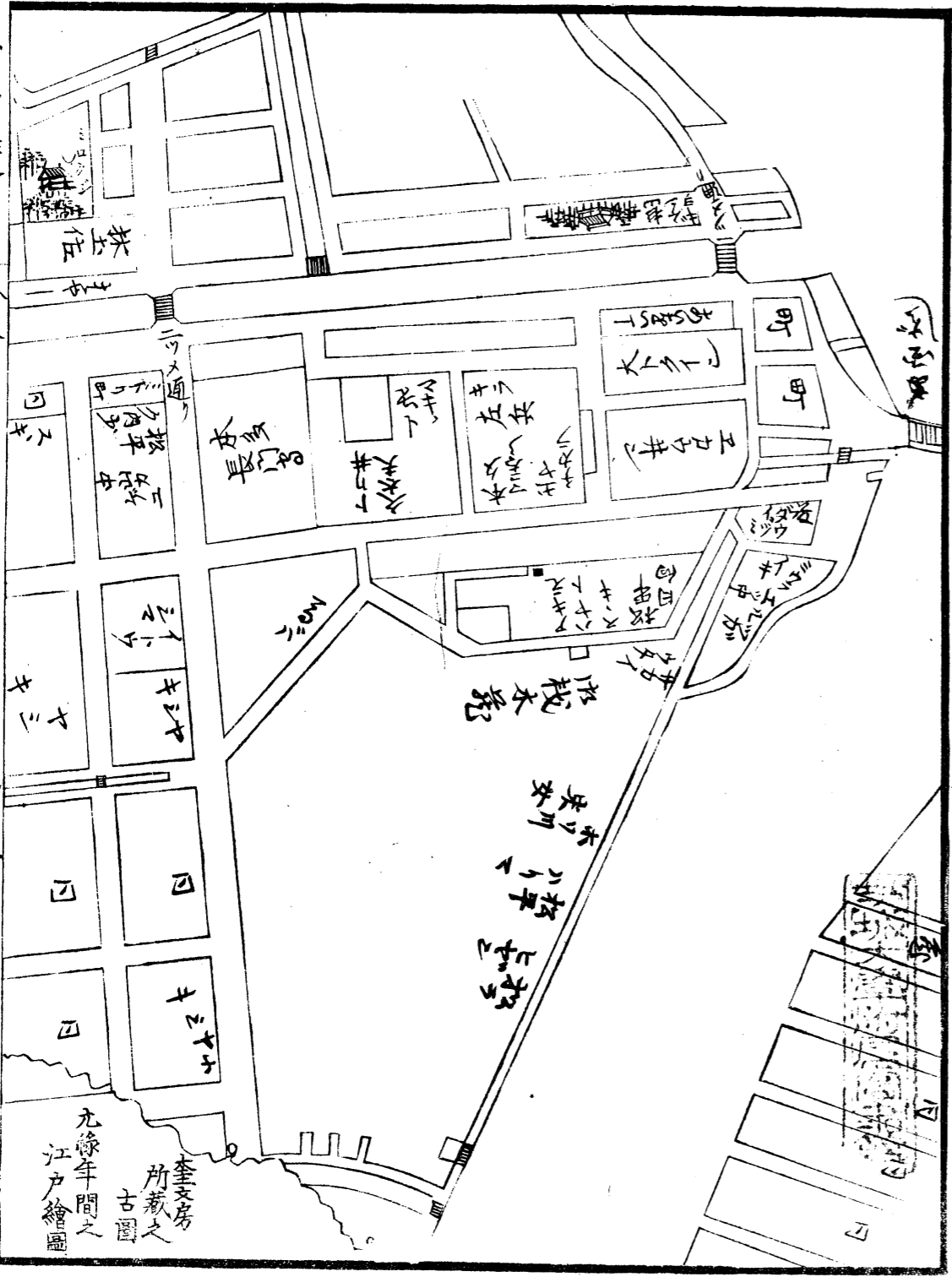





按ずる小吉良家も赤穂の妻あり一時ハ兵服袴の内ふあり
 本あや屋まぐらありて夜討までの間ハちづら一年あやうら
 正なりある人言本あやや一まぐらありハあやまきあると云い
 一が精しくおあやうらハ残りて一まきとありまきとておあやの
 海志む一廢地となりてあり一が元禄十四年四月廿二日町屋
 とあり一とハ一丈話よりとあり一とあり一とあり

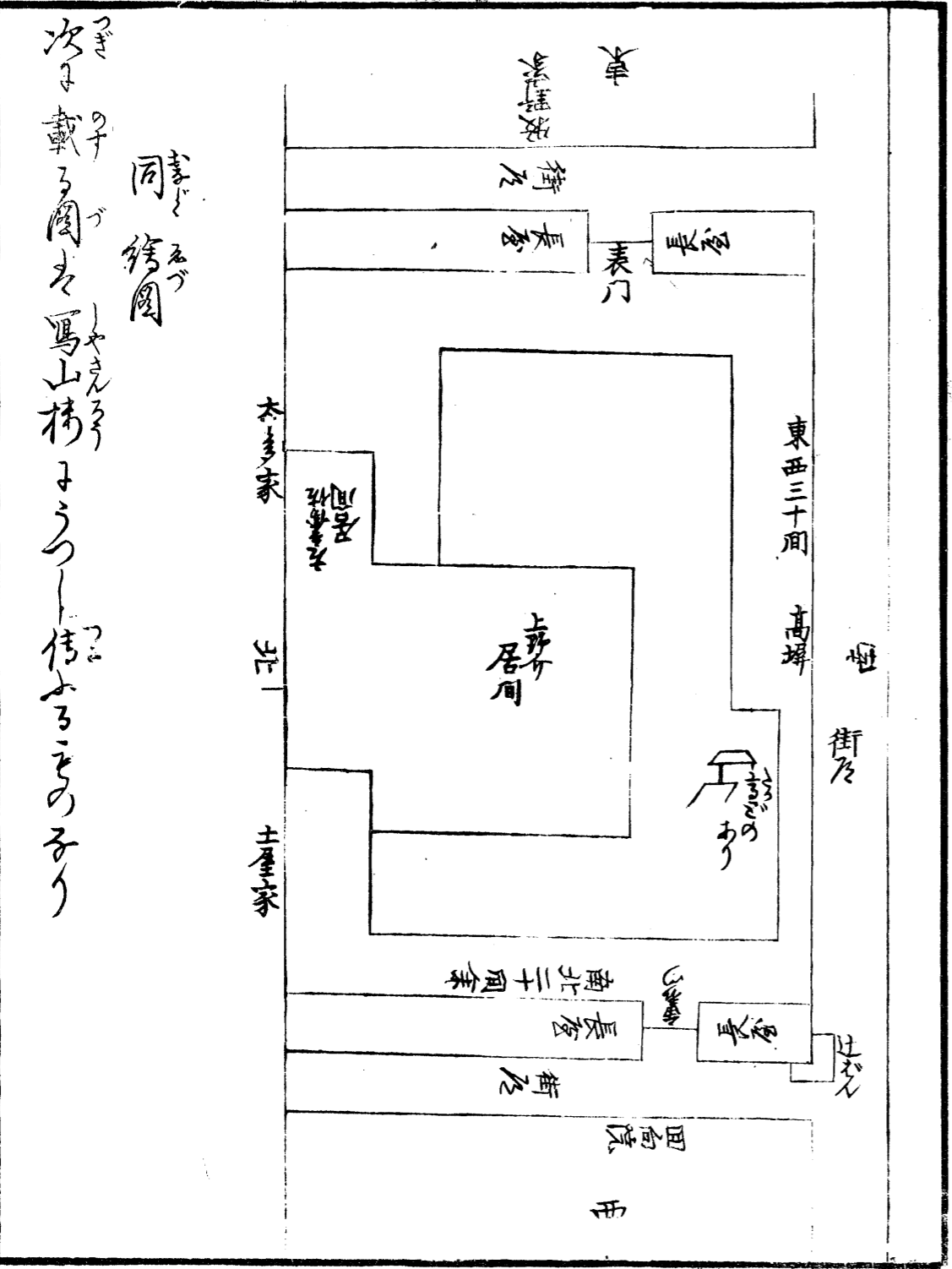


おののする元禄年間かんくねんの繪圖えづは、えんぎをやぶお子屋やまきが、ありありこの繪圖えづは、つぎる屋やまき比ひ繪圖えづとあをせえて義士ぎしうら

つうのやうすとあひやるべし
吉良家紋きりやうかん及目大圖めだいで
元禄げんろくのころの御役人おやくにん附つき

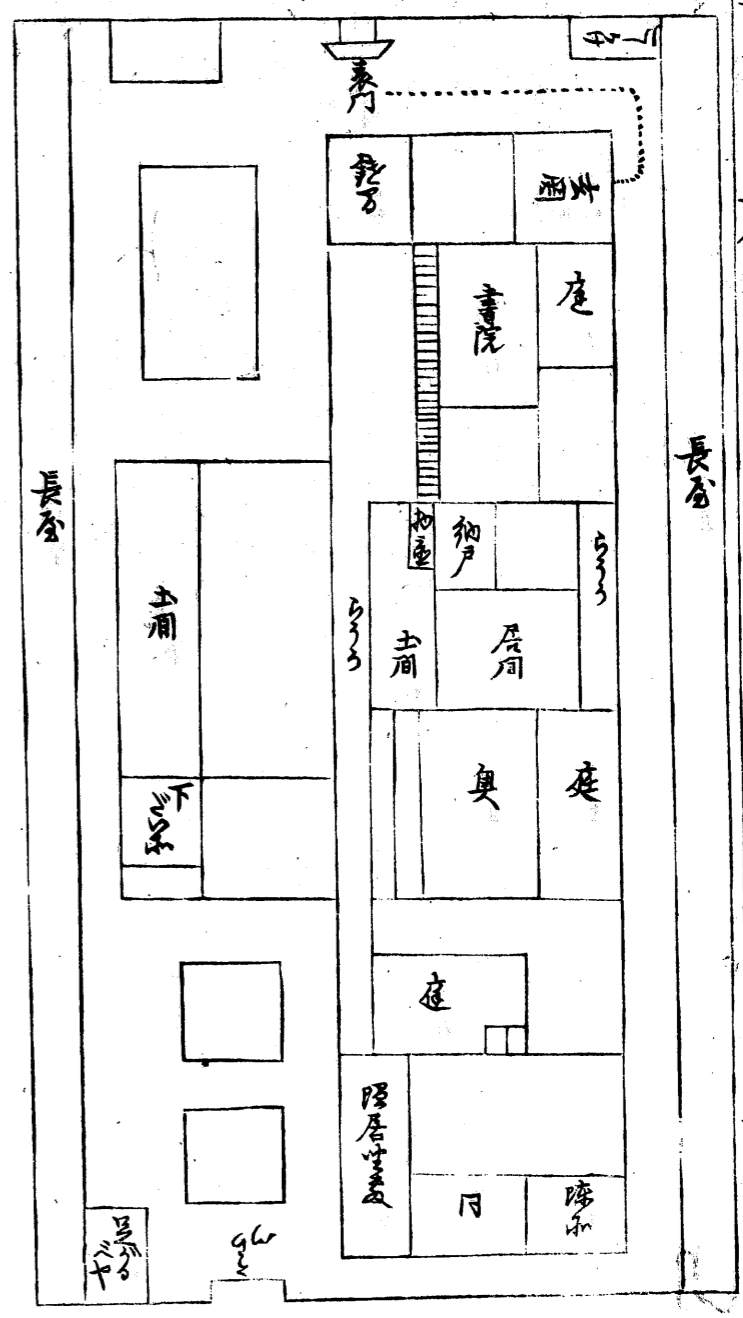
高家衆 當番入ッ	
	父若狭守 四十五百五 吉良上野介 從四位下 左將
	中 <small>な</small> まき 白 <small>しろ</small> うら
	三 <small>さん</small>

同登おとぎの繪圖えづ
この繪圖えづを、さき城やま義ぎ屋えん傳でんに載のせるところあり



同おとぎ繪圖えづ
次つぎに載のせられたる繪圖えづを、しやま山やま栢は子こううの傳でんに載のせられたる

長上繪圖 一



吉良家士の口書

十五の朝官使すべし十二人吉良家の屋敷に到り義士討入
 のおとれ始末と逐一書きあやらるる吉良家の家老高屋

内定候人吉良高屋出で官使にお謁して應對す
 吉良左衛門義周の口書

昨日夜八ツ半時上野介并拙者の宅へ浅井内匠宗来と名
 乗けて大勢火事装束少く押込中長巻二子お掃子と掛巻
 つの扉と破り大勢乱入る等則長刀を握りおとす
 宗来ども防戦仕下ども彼若ども兵具子牙とありあやうや
 若宗来手負死人多く一花あり乱入の若も手と負するまで討
 りあやう拙者方へ切込中なる番の宗来側子討居中めい
 も防ぎやれ拙者も長刀少く防ぎ中ふ二子お掃子負やんて眼へ血
 入り氣をくすりありおとすて氣つき上野介ん掃子存る居間
 へ逃れてえん中(ハ)宗子討れ中その場乱入の若も引寄り居りや

死者

死人名前

上野介死骸又疵多手の内一ヶおづ左の股子一ヶお左の膝尻子一ヶお
膝一ヶおこれあり且又刀子お血付柄子切込あり股指ハ入る

小林平八郎

南小倉お子死す

左邊橋用人
香井利右衛門

香井の産子死す

用人十右衛門

座敷の産子死す

中山性一学

孝和の産子死す

中下村お初右衛門

孝和お子死す

左邊橋中下村

中倉お子死す

左邊橋中下村

小倉お子死す

日役新見弥七郎

日不

日役小塩源次郎

日不

上野介祐孝
鈴木元右衛門

小倉お子死す

左邊橋
柳原早左衛門

小倉お子死す

日役笠原長十郎

孝和の産子死す

日役
柳原早左衛門

小倉園口お子死す

日役
物野春吉

小倉お子死す

足輕 一人

三宅お子死す

中間 一人

小倉園お子死す

都合死者十七人

但この内上野介及孝子士八ハ刀服差小
血付切り込あり外五人を傷きお初中村

手負名前

左邊橋手負殿一ヶお源子一ヶお何れも浅創

家老

高橋玄右衛門

日役

左太田孫兵衛

日役
岩瀬金右衛門

昨夜八時合点事と申は左小倉より孫也外小倉一同子三人が
瘡と指差を告ぐ中村戸をあけてのぞき外来りし時と肩の依
之おひ久その様尾中ハ上野介討ま左邊橋手負中村
右三人の口書日知あり

左傷依赤光 傷手

松原多伸

十弓折ハ半肘台火事ト申 裏心打考仕ル者 松小屋門脱して
此屋外ニ舟早速屋外ニ受弓引く射られ矢疾と被り中下ト大
勢と折手子差向ハ受心ニ射破りハ槍引く槍引く折傷され衣の疾
あゝ傷き傷成り不中ハ

左傷次役

高屋十仲傷

松原高屋引く廣間子卧居中ハ亦大勢切込ニ中ハ舟防傷き
手と肩中ハ左傷悪中ハ

左傷依五次役

浪水園右方

小登小卧居中ハ火事ト申中ハ舟屋外ハ六槍長刀引く双向中ハ敵

大勢四急槍疾刀疾と被り中ハ何とぞ且那彦者まで
裁つきとろ小舟手左傷れ中傷き成不中ハ

此外を不害不不左方 内新傷 山吉新ハ舟 舟手

木手負の共すて二千ハ人何れも三子 何ト疑きの口書子

速者こそ子男す幸病の共るハ人逐雷の共ハ人あり

義士討りのあとし捨あゝあ

鏡ニ本 一本ハ折れて櫓子一本ハ切り折れて櫓子

矢五筋 茅所事成と書りあり 深淵子云この矢ハ敵と劫

射槍さる矢あゝあ 忘れさるハあゝあ

月一手 早水満竟と書りあり

斧二挺 これハ門戸と折破るハ用ゆるの具子と書り

推二種 これもお子日然あるべし

竹札二千枚 札毎小名字と書りあり

これと海瀾子ハ主札が紐の心おえし作りおけるあてに用のも
の子まハ括るるあんとしど夜付子枚と用ゆると幸ふれハ枚
をまぐ

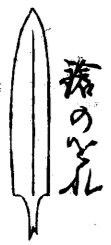
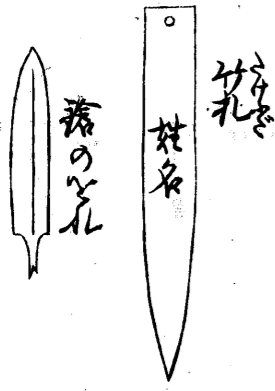
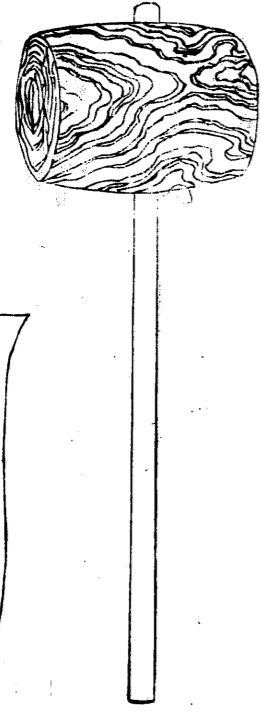
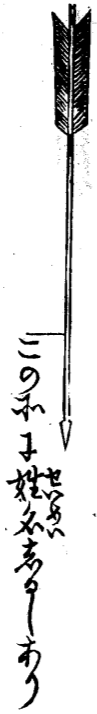
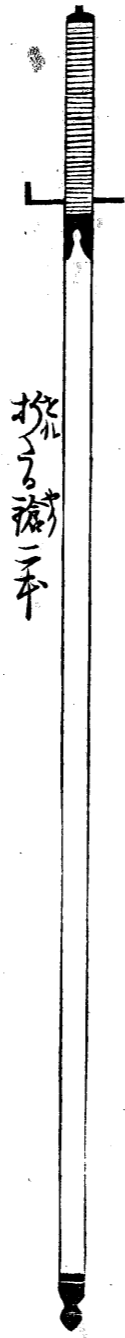
角附の細引繩三筋 手子一本 白鞘の刀一腰 腰古と珠あり

鎗の柄一本 山多の羽鍔子き矢一筋 津所内匠所承本村松

之大夫とあるべし 文箱 玄園子あり 義士書並とあるあり

以上十三品ハミ子に用のおより周章して送るべし
あつるその上乱世の夜付とハ主意是ありいり中と子れば
早六人必死の覚悟あり明日と期するの意あり

捨るあつる人大言忠雄が鼻紙入れのおも洒代はあつるもあつて
あるべし



村松三大夫

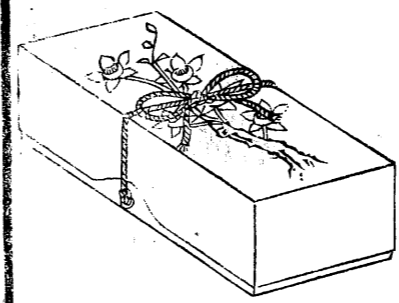
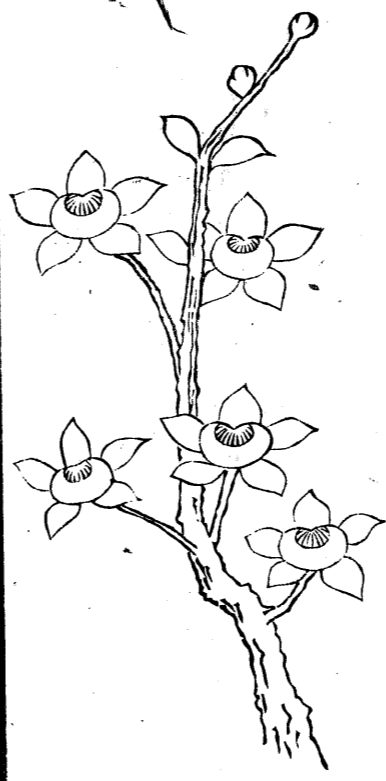
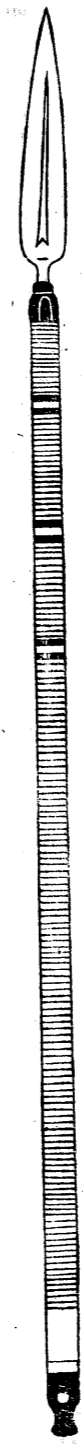
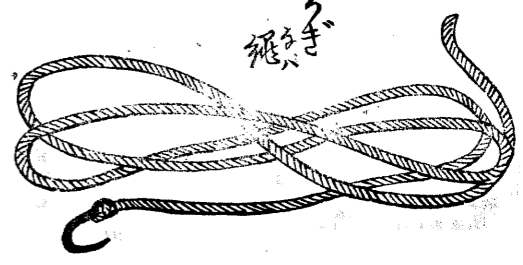
山崎のねれ矢



手子



飛子



元禄十五年 壬午の暦

十二月大 建 癸丑 婁女宿 軫水より

一	二	三	四	五	六	七	八	九	十	十一	十二	十三	十四	十五	十六	十七	十八	十九
つひののし	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら	つちののら
あ	土	金	木	水	火	土	木	金	火	土	木	金	火	土	木	金	火	土
十一	とようさるの四刻入く日あさうは	大さるういやく日	けんやくいやくあさうは	大ん十二月の中うの二刻ちう日のおさうは	大さるういやく日	とようさるの四刻入く日あさうは	大さるういやく日	けんやくいやくあさうは	大ん十二月の中うの二刻ちう日のおさうは	大さるういやく日	とようさるの四刻入く日あさうは	大さるういやく日	けんやくいやくあさうは	大ん十二月の中うの二刻ちう日のおさうは	大さるういやく日	とようさるの四刻入く日あさうは	大さるういやく日	けんやくいやくあさうは
五む日わりのん	大さるうちう日正月とさうあは	く急日うく日ちのさうは	十	ふめらうけんすすさうは	神あ	大さるう五む日大さるう	天正ちう日正月とさうあは	すさるういやく日	せんあん	大さるういやく日	とようさるの四刻入く日あさうは	大さるういやく日	けんやくいやくあさうは	大ん十二月の中うの二刻ちう日のおさうは	大さるういやく日	とようさるの四刻入く日あさうは	大さるういやく日	けんやくいやくあさうは

廿九	つひの	ひま	火	立春正月廿九日の六刻ニ入秋の
廿八	つひの	ひま	火	秋の
廿七	つひの	ひま	火	秋の
廿六	つひの	ひま	火	秋の
廿五	つひの	ひま	火	秋の
廿四	つひの	ひま	火	秋の
廿三	つひの	ひま	火	秋の
廿二	つひの	ひま	火	秋の
廿一	つひの	ひま	火	秋の
廿	つひの	ひま	火	秋の
十九	つひの	ひま	火	秋の
十八	つひの	ひま	火	秋の
十七	つひの	ひま	火	秋の
十六	つひの	ひま	火	秋の
十五	つひの	ひま	火	秋の
十四	つひの	ひま	火	秋の
十三	つひの	ひま	火	秋の
十二	つひの	ひま	火	秋の
十一	つひの	ひま	火	秋の
十	つひの	ひま	火	秋の
九	つひの	ひま	火	秋の
八	つひの	ひま	火	秋の
七	つひの	ひま	火	秋の
六	つひの	ひま	火	秋の
五	つひの	ひま	火	秋の
四	つひの	ひま	火	秋の
三	つひの	ひま	火	秋の
二	つひの	ひま	火	秋の
一	つひの	ひま	火	秋の

元禄十四年出立表測景定節氣者中のや

同羊朔祥曆

元禄壬午の歳を清の康熙四十年とありしは此年の朔祥曆ありさて清の曆本世子多くありて殊々朝祥板の書籍を希する小曆本ハ之にてなきことありしは其年の曆あり候をてこよ載す

大清康熙四十年歲次壬午時憲曆

正月大 癸未 八日庚寅巳正一刻立春正月節 壬子卯正一刻雨水正月中
二月小 癸丑 八日庚申卯初初驚蟄三月節 壬子卯正一刻春分二月中
三月大 壬午 九日庚寅午正初刻清明三月節 壬子卯正一刻穀雨三月中
四月大 壬子 十日辛酉辰正二刻立夏四月節 壬子卯正一刻小滿月中
五月小 壬子 十一日壬辰申初三刻芒種五月節 壬子卯正一刻夏至五月中
六月大 辛亥 十二日甲子寅正初刻小暑六月節 壬子卯正一刻大暑六月中
閏五月小 辛巳 十五日乙未正三刻立秋七月節

十月大

建癸丑

前月十九日丙寅卯初刻小寒十二
天德在庚月飲在亥月故在辰月德在庚
是月也 鷹北鄉 鵲始巢 雉

四日庚辰亥正初刻後日躔

上弦 臘

一日丁丑水軒建土王用事官祭祀

二日戊寅土角除日出辰初刻四日入申正三刻

三日己卯土元滿宜會親友嫁嫁進人口裁衣宜期

四日庚辰金臥平大寒土月中宜祭祀

五日辛巳金房定宜會親友

六日壬午木心執宜祭祀上表章上官宜期射獵伐木

七日癸未木尾破

八日甲申水箕危宜上表章出行移徙進人口宜期

九日乙酉水斗成日出卯正三刻十六日入酉初初

十日丙戌土牛收宜祭祀納財捕捉暵

十一日丁亥土女開宜祭祀會親友療病

十二日戊子火虛閉宜沐浴裁衣宜期之券交易

十三日己丑火危建宜祭祀

十四日庚寅木室除宜會親友療病

十五日辛卯木壁滿日出卯正三刻七分日入酉初初刻

十六日壬辰水奎平

月節天道西行宜向西行宜修造西方

月合在乙月在甲乙庚宜修造取土

雄 雞乳 征鳥厲疾 水澤腹堅
玄枵之次宜用癸乙丁辛時 黃綠紫 碧白黑

不宜出行

十六分晝三十九刻七分夜三十六刻八分宜上會親友進人裁衣宜期

經絡開市立券交易納封收養

不宜出行

捕促安葬

不宜移徙

闔市沐浴收養伐木暵安葬作門

刻三分晝四十一刻六分夜五十五刻九分宜祭祀沐浴收養宜期

不宜出行移徙

不宜移徙針刺

不宜出行

壬午年

不宜出行

八分晝四十一刻二分夜五十四刻廿勞宜會親友進人裁衣宜期

發開市立券交易納財收養

落首

浅野家の落首

たゞこの世の武士の目とさあけあきこのちふぞ捕まあり
 赤穂壇うらううまうてうらのおたぎれの事を笑もまことし
 海をきまむのいなりは泉岳寺あはれ夜残すきこそ是
 吉良うちてあきのうらとくさしハ大志くうらうき手いハつ
 身とすそ名とを雪井子あり明の光とそめるあきの屋敷
 吉良家の落首

おらうあげるきこのじしはうらぐんをお對でとる上野の首
 あきのちふち急ある人があつてとくさしあふきつれ上野
 今もでハあきいこととあひハうらうらうらうはきつれ上野

落首のうた

死の及まうとせとても頼まれずこそこのわいことてきつれ
 忠臣とあつうらおきくももろくろそ川あのお早とをうらう
 不ろくハの水の子ぐハは清々名をぶひハおきのらうまよ
 流すよおまよハあるまをそとろそハあきの涙きいあよ
 あづけあき子うら水のいも子くうま世は涙流すや川

朗詠の落首

三五夜中夜討色 逃而後左兵衛心
 父のおも子出る血の色と子ぐハは今宵そ恥の言中あり
 とうろく十五年恥のうきぞめ